



杉谷 誠一さん (山田・70歳)

## 登校児童を見守り続けて10年

★どんな仕事をしていましたか  
学校を卒業してから、町内の製材所と釜石市の製材所に合わせて四十年くらい勤めました。  
★今頑張っていることは  
山田北小学校に通う子供たちの登校交通指導をボランティアで行って、もう十年以上になります。子供たちを交通事故から守るためと思って、学校がある日は毎日やっています。

★始めたきっかけは  
町防犯隊に入隊したところに桃山橋の所は見通しが悪く、交通量も多くて危険だということを知ったのがきっかけです。  
★最近の出来事は  
この活動を続けていたことで、町教育委員会表彰をいただきました。自分ではそんな大したことをしていないつもりはないですが、ありがたいことです。  
★最後にひと言  
一番末の孫が北小の児童なので、孫が卒業するまでは続けていきたいですね。

## イラスト



威繪 善徳 (15) 新学年 V 5 (17) 月咲 よあん (16) 伊藤 有紗 (13) まめつち (?) おのほるな (6) 稲川 美里 (11) 山崎 心 (11) さとう あきえ (7) 佐々木 梨沙子 (10) 中村 チヨビ子 (?) みなと ゆうき (4)

# みんなのスペース



にしかわ ともやくん (船越保育園・5歳)

## ぼくのゆめ

大きくなったら大好きな  
シヨベルカーも運転したいな。  
よく互事を見に行ってるんだ。

## 古里への便り①



ふる里山田同郷の会顧問  
神奈川県藤沢市  
藤五郎さん (76歳)  
〔中央町出身〕

山田町の皆さま、「ふる里山田同郷の会」の皆さま、お元気で過ごしのことと存じます。本日は、「広報やまだ」に寄稿できる喜びとお礼の言葉を述べさせていただきます。  
昨年の秋、ふる里山田同郷の会の役員会において、沈滞気味のふる里会を活性化するための話し合いが行われ、▽ふる里会

設立当初のように、総会に郷土芸能を出演させてもらいたい  
▽広報やまだに寄稿欄を設けてもらいたい  
い——などの意見が出されました。  
早速、堀合会長が文書で山田町にお願いしたところ、広報やまだへの寄稿の件につきまして、今号から組み入れてくださることとなり、初代会長のわたしが第一バツターとして投稿することにになりました。郷土芸能については、近況報告によると関谷の大神楽が猛練習で活況を呈しているとのことでした。

ふる里会に出演した郷土芸能の一番手は関谷の大神楽と関口の剣舞でした。都会で響くあのドンドンという大きなリズムと勇猛な舞は実に圧巻でした。二十年前に出演したお父さんたちのあの喜びと感動を、子供たちにもぜひ味わわせてあげたい。あつ、これが「ふる里愛」なのだ。その心情を思うとき何とかして今年六月十九日の「ふる里山田同郷の会」総会に郷土芸能の出演を実現させたいと思う、このごろです。  
末尾に一言。昭和三年辰年生まれ、祝、喜寿「人生、生きてるだけで〇もうけ、頑張りう」。

## 投書

どんなことでも結構です。  
どしどしお寄せください。

## 大津波の記事を読んで

広報やまだの「大津波は必ずやって来る」を読み、参考にしなければと思っています。まさかとは思いますが、テレビで見たあのインド洋大津波の惨事には驚きますよね。ここにも近い

将来、大津波が襲来するという話があるので、津波に備えて「あれはある、これが必要」と子供と話をしています。実際起きた場合、本当に対応できる心配です。特に子供たちと離れて暮らしているのが一番の心配事です。避難の際は、家族で声を掛け合って安全な場所にそろうって避難したいですね。  
黒澤頼江 (船越・?歳)  
◇ ◇ ◇  
広報やまだで、宮城県沖地震の発生する確率は十年以内に五十%、三十年以内に九九%——

## 交通安全を心掛けよう

今年も春の全国交通安全運動が四月六日から始まります。

本町では昨年一年間に交通人身事故が四十二件も発生し、うち一件が死亡事故。過去に例を見ない一度に三人が亡くなるという痛ましい事故でした。このような交通事故を起こさない運動として、立て看板を設置したり街頭指導の活動を根気強く行ったりしているものの、依然として交通事故が減らないのが現状です。昨年十月二十三日から交通死亡事故ゼロを継続して日は浅いですが、本町はかつて三年あまりの実績があることから、死亡事故ゼロの継続は決して不可能なことではありません。

継続は力なりという言葉どおり運転者一人ひとり、町民一人ひとりが一層の安全運転を心掛け、悲惨な交通事故のない山田町にしていくために、皆さまのご協力をお願いしたいものです。  
西館隆 (船越・?歳)  
**黒森神楽に魅せられて**  
春の風物詩ともいえる郷土芸能、宮古市山口の黒森神楽の船越巡業が三月五日晩、船越防災センターで披露され、わたしたち中高齢者約四十人の観衆を心ゆくまで魅了した。県指定無形

民族文化財とあって、どの演目も尊厳さと気品に満ちた舞であった。午後六時半から九時過ぎまでの長時間のプログラムで、わたしたちは、しばらくぶりに目にした神楽に、ただうっとり見入った。こんな意義ある勇壮な舞をわたしたち一部の観衆で見るのが惜しい気がしてならなかった。スタッフ約十二人の中には、まだ中学生などの若者もいて、活気に満ちた舞には、やはり期待感を意識した。そして貴重な三陸沿岸部の文化財をいっまでも絶やさぬよう、若い世代に継承されたいものと願わずにいられたかった。今でもあの囃子の余韻が頭をかすめる。  
齋藤忠雄 (船越・?歳)  
◇ ◇ ◇  
過ぎし日を  
泣きつ笑いつ語り合う  
農の唄ら皆逞しき  
佐藤美栄子 (大沢・84歳)  
初登校思ひ出の日今朝の顔  
佐藤菊實 (荒川・77歳)  
カラオケで  
オンチながらも気を癒す  
松崎静雄 (船越・?歳)  
友とゆく春めく空を田んぼみち  
古藤野強 (豊間根・?歳)  
素直なる心を常に保てよと  
経本くれし亡き母思ふ  
菊地サカエ (織笠・70歳)